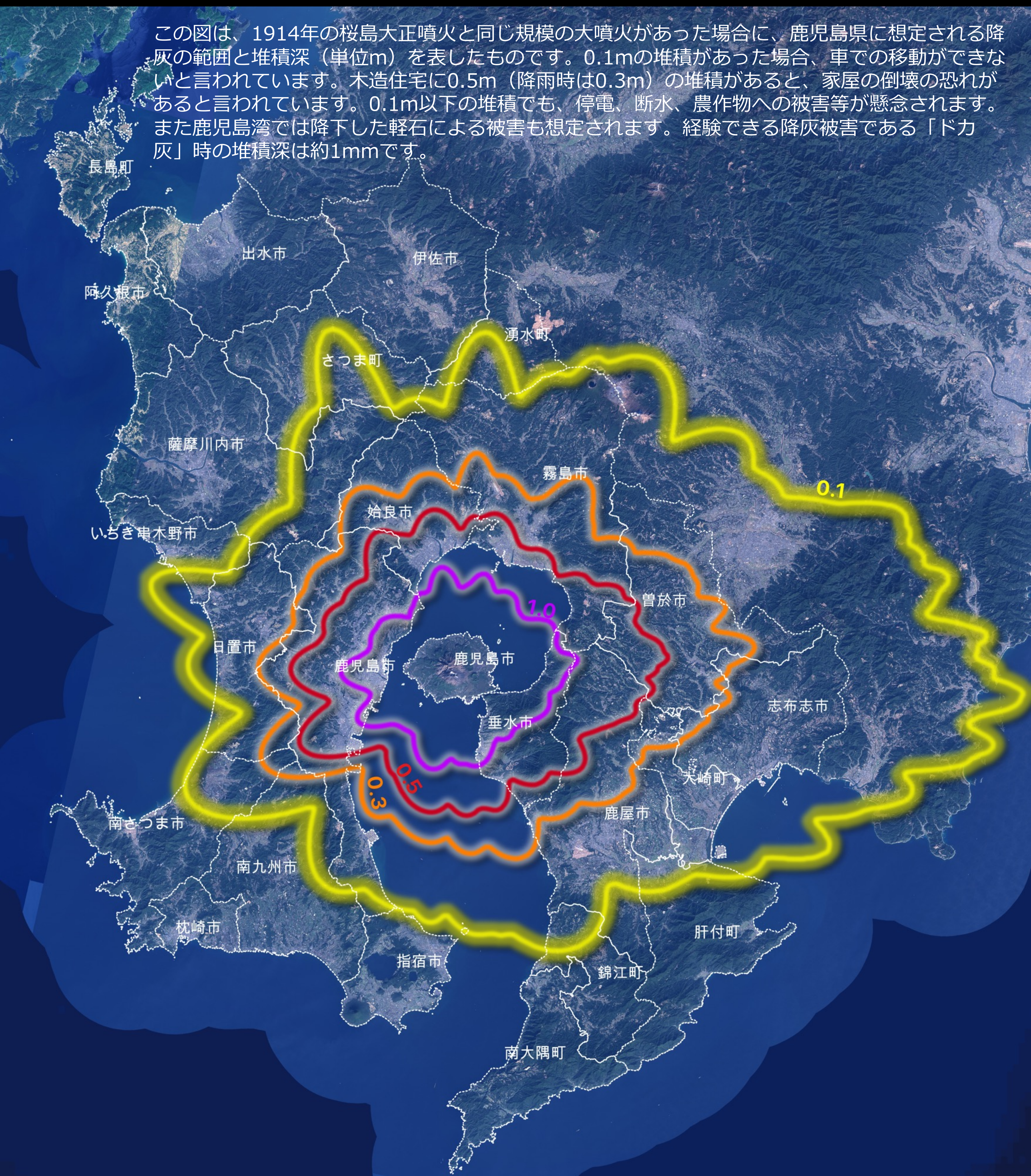
桜島の降灰ハザードマップ

地震火山地域防災センター　特任研究員　中谷　剛　（背景は国土地理院写真）

この図は、1914年の桜島大正噴火と同じ規模の大噴火があった場合に、鹿児島県に想定される降灰の範囲と堆積深（単位m）を表したものです。0.1mの堆積があった場合、車での移動ができないと言われています。木造住宅に0.5m（降雨時は0.3m）の堆積があると、家屋の倒壊の恐れがあると言われています。0.1m以下の堆積でも、停電、断水、農作物への被害等が懸念されます。また鹿児島湾では降下した軽石による被害も想定されます。経験できる降灰被害である「ドカ灰」時の堆積深は約1mmです。



この図は、2020年1月1日から2021年12月31日の毎日、大正噴火級の大規模噴火があると想定した2年間の降灰計算を行い、地点毎の最大堆積深をもとに作成しました。降灰計算に必要な高度別の風向風速は、鹿児島地方気象台が毎日午前、午後9時に行なっている高層気象観測結果を利用しました。風向風速によっては、この図に示されていない場所に降灰があったり、堆積深が大きくなったりする場合があります。